

中間とりまとめを踏まえた 現行取組みの整理について

○これまでの分析において、主に以下のことが分かった。

- ・ 経済的困窮度の高い層ほど、無業や非正規状態が割合が高くなる。
困窮度の高い層は、生計者が母親である割合が多く、ひとり親世帯や若年で親になった世帯が多い。
- ・ 経済的困窮は、親子ともに心身の健康に影響を及ぼしている。
- ・ 経済的困窮している家庭ほど、朝食を共にすることを含め、親子の関わりや体験が少なくなる傾向があり、子どものやる気や学習態度や理解に影響していく。
- ・ 困窮度Ⅰ（等価可処分所得の中央値の50%未満）であっても就学援助制度を利用したことがない世帯がある。

○大阪府においては、こうした点を踏まえ、今年度中に現行取組みの課題と対応の方向性について、下記の1～6の分野で整理することとし、今回、中間まとめを行う。

1. 家計・収入に関すること
2. 親の就業に関すること
3. 食事に関すること
4. 子どもの教育環境に関すること
5. 子どものつながり（生活環境）に関すること
6. 親への相談支援に関すること

○今年度中にとりまとめた調査結果は、平成29年度以降の取組みの検討に活用する。